

5月20日(土)古河市にある「ユースセンター総和」で開催されました「古河演芸愛好会旗揚げ公演」
くまらが演芸会>に参加させて頂き、落語、漫談の合間に行う「色物」として、公演をしてきました。
200名近いお客様が来場され、地元の演芸愛好会の5名の方々が落語などで公演をされました。



事前に代表者の方と座長の打合せ



支度を済ませ出番待ち中

今回の公演は15分という事で、「玉すだれ基本」と「きよしのズンドコ節」を行いました。
お客様の反応も良く、手拍子、笑い、拍手などと一緒に元気も頂きました。

ホール全景



今回は出演中の写真は撮れませんでしたので、「くまらが」についての話を次ページに。

「まくらが演芸会」の「まくらが」とは？

(参考:国土交通省関東整備局 HP ほか)

万葉集に由来しているようです。

「麻久良我(まくらが)」は、許我(こが)の枕詞とする説もあるが、万葉時代はこの辺りは広い水郷地帯であり、「まくらが」と呼ばれた、との説もある、との事。

「許我(こが)」は茨城県古河市で、利根川から渡良瀬川が別れる辺り。

逢(あ)はずして 行かば惜しけむ 麻久良我(まくらが)の 許我(こが)漕ぐ船に 君も逢はぬかも

(万葉集「巻 14-3558」)

説明板にある現代語訳では

「あなたと逢わずに行ってしまったら心残りだろう、まくらがの古河の渡し舟であなたにお逢いできないものかなア」



「古河駅前の万葉歌碑」

麻久良我(まくらが)の 許我(こが)の渡(わたり)の 韓楫(からかぢ)の 音高(おとだか)しもな

寝(ね)なへ児(こ)ゆゑに (万葉集「巻 14-3555」)

説明板にある現代語訳では

「まくらがの古河の渡し舟の韓棹(からかぢ)の音が高いように高い噂がたってしまったなア あの子と共寝したわけでもないのに」



「渡良瀬川河畔堤防の雀宮神社境内の碑」

(記:加藤)